

コラム 認知症当事者をつくった 16のまちだアイステートメント

町田市では、認知症にやさしいまちの目標の共有を目的に、認知症当事者とその家族をはじめ、医療福祉関係者、行政、民間企業、NPO、研究者など幅広いメンバーで、「16のまちだアイステートメント(文章)」を策定しました。

通常、目標は、「認知症サポーター養成講座を50か所で開催する」といったアウトプットで設定されることが多いのですが、「アイ・ステートメント」は、当事者の視点を重視し「(認知症となった)私は、地域で仕事や役割をもって暮らすことができる」といった形とし、取り組みをした結果、認知症の人の状態や暮らしがどのようになるのかといったアウトカムで表現しています。このアイステートメントを活用し、立場の異なる人たちが対話を進めていき、すでにやっている取り組みの点検や、まだ取り組めていない領域について検討していきます。

Machida 01
"I" statement
私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、主体的に考えられる。

Machida 02
"I" statement
私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を選べる。

Machida 03
"I" statement
私は、望まない形で、病院・介護施設などに入れられることはない。望む場所で、尊厳と敬意をもって安らかな死を迎えることができる。

Machida 04
"I" statement
私は、私の言葉に耳を傾け、ともに考えてくれる医師がいる。

Machida 05
"I" statement
私は、家族に自分の気持ちを伝えることができ、家族に受け入れられている。

Machida 06
"I" statement
私の介護者は、その役割が尊重され、介護者のための適切な支援を受けている。

Machida 07
"I" statement
私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、一緒に時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる。

Machida 08
"I" statement
私は、趣味や長年の習慣を続けている。

Machida 09
"I" statement
私は、しごとや地域の活動を通じて、やりたいことにチャレンジし、地域や社会に貢献している。

Machida 10
"I" statement
私は、認知症について、地域の中で自然に学ぶ機会を持っている。

Machida 11
"I" statement
私は、経済的な支援に関する情報を持っており、経済面での生活の見通しが立っている。

Machida 12
"I" statement
私は、地域や自治体に対して、自分の経験を語ったり、地域への提言をする機会がある。

Machida 13
"I" statement
私は、認知症であることを理由に差別や特別扱いをされない。

Machida 14
"I" statement
私は、行きたい場所に行くことができ、気兼ねなく、買い物や食事を楽しむことができる。

Machida 15
"I" statement
私は、支援が必要な時に、地域の人からさりげなく助けられることができる。

Machida 16
"I" statement
私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です。

※16のまちだアイステートメントをまとめたコンセプトブック「みんながつくる認知症フレンドリーまちだ」。



※詳細はまちだDマップ(裏表紙参照)でご覧になれます。